

協働事業等提案制度・市民活動推進補助金制度の提案・申請は5/15(火)で受付終了

・・・「あの手この手」にてのご案内は4・5月号に続いて3回目です・・・

日頃の市民活動に支援を得ようと、「センター」での相談日5/9(水)に来館

NPO 法人 マイセラ・ジャパン

(旧:くじらのしっぽ)

ひとこと

活動紹介: 虐待防止のため、まず母親の心のケア講演会、ワークショップに補助金「はぐくみ」を使いたい・・・申請を予定

これについてはもう少し詳しく資料準備を

チームしらかし華の会

ひとこと

活動紹介: 被災地の緑化を通して復興支援被災地へ苗を運ぶ費用も補助金の対象になりますか?・・・申請を予定

事業の収支予算等わかりやすい説明で



大和市芸術文化振興会

ひとこと

活動紹介: 生の音楽にふれ芸術観を高める市民活動推進補助金制度の活用ができるかどうか?・・・検討する

* 協働事業等提案関係の相談はありませんでした。

次の日程: 6月10日(日)午後1時～勤労福祉会館3F

協働事業等提案発表会

市民活動推進補助金制度のこれからの予定

・6月3日(日)午後2時～勤労福祉会館3F

市民活動推進補助金公開選考会

* 選考結果は当日発表されます。

7月1日(日)13:00～16:00 勤労福祉会館3Fに みんな集まろう!

第4回登録団体交流会2012 ～ひろげよう 市民活動の“わ”～

今回はどんなアイスブレイク?

じゃんけんして参加者の多くと私製名刺交換し、席次と特典を競うこともやるようだ

隣相手の情報を得て参加者に向かってその人を紹介することもやるのかな?

また会ったね。
つながろうね。
つながりの手
ひろがりのわ
活かそう!

2分間で活動紹介は定例メニュー。言うことをうまくまとめて、みんなにPRしましょう

大きな交流の輪を作ってピーチクパーチク賞を獲得しよう

最後はみんなで、ニコリ記念写真



第(52)回連続共生セミナー「茶OH!」で

チャオ!を5/17(木)に実施しました。

参加者は18名、市内の民間福祉3団体と健康福祉総務課が協働事業で行っている

「ふくしの手 全員集合」をセミナーとして共

これが湘南ブルー「茶OH!」の旗

催しました。「センター」会議室に集合、ガイダンスを聞いて隣の大和公園で「旗」を揚げる予定でしたが、おしゃべりが盛り上がっていたので変更。「センター」入口に「旗」を揚げて出入り自由に話題はひろがっていく。広報やまとタウン紙で「茶OH!」は知られていました。「旗」は健康福祉総務課で知られます。気負わずに自分流に世話人になる・参加する・孤独を無くそうをネライに広げましょう。

今回は第(53)回連続共生セミナー

テーマ:「もしもの時 本当に必要なものは?」

～災害時に役立つ 知恵と物～

日時: 6月26日(火)15:00～17:00

場所: 大和市民活動センター会議室

話し手: 小宮山利恵子さん(「食のアトリエ」)

内容: 知ってる、知らないでは大違い!

いざという時に日頃の「知恵」がどんなふうに関与するか具体的に話をしてもらいます。

*「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

生の音楽にふれ、夢を描こう

親子で楽しむコンサート

5/13(日)生涯学習センターにて開催

主催:親子で楽しむコンサート運営委員会・大和市芸術文化振興会

会場 400 名、
生演奏はみんな
の心に響きました

楽器はサクソ、
ヴァイオリン、チェロ、
ピアノ、フルート、
パーカッションなど



市民活動
の
現場から

・午前の部: 幼児～幼稚園児を対象に演奏
・午後の部: 幼稚園児～小学生を対象に演奏
童謡、ディズニーメロデーやクラシックの名曲を披露
しました。子どもたちは楽器に触れ、その音色を聴き
演奏者と楽しくふれあっていました。
今回の催しは大学生が企画し高校生もボランティアで参加、
芸術文化振興会の小林さんの支援を得て実現したものです。
* 大和市芸術文化振興会はウィーンホール(大和東1丁目)を拠点に
事務局・小林三夫さんが主体に活動。昨年度はワンコインコンサート
を主催。絵画、音楽等芸術を通して心豊かな地域づくりに努めている。

プロムナードガーデンは美しく広がる

みんなで花壇づくり

5/26(土)・27(日) 大和駅東側プロムナード

テレビでお馴染みの「廃材のスタイリスト 金井良一氏」
のアドバイスを受けながら 20 程の団体が花壇作りに汗を
流していました。当センターの登録団体に、緑化を通し
て被災地の復興を支援している「チームしらかし華の会」
もその一つ。

作業をしていた青年は、「今の被災地は
見渡す限り更地で『土色(つちいろ)一色
のキャンバス』です。これからどんなふう
にキャンバスが彩られて行くのか、その時々
の状態を私達の
花壇に映し
出し、被災地
復興の状況や被災地
の思いを市民に伝え
て行きたい」と語って
くれました。



* 活動状況を掲載してみませんか?。毎号 2~3 団体を予定。希望団体は「センター」宛、ご連絡ください。

知りたいことがここにあります。伝えたいことがここでできます。(前号の続き)

「センター」はあらゆる市民活動を推進・応援・共育する施設・情報の受発信基地です

「センター」の施設・設備を案内します。

・印刷機(有料)(利用予約はできません)
昨年度利用 73 団体、472 回
1原稿 11 枚以上なら一般コピーよりお得
カラー印刷はできないが…。作業時間も
比較的短くすみます
* 自動紙折り機・裁断機(無料)もあります

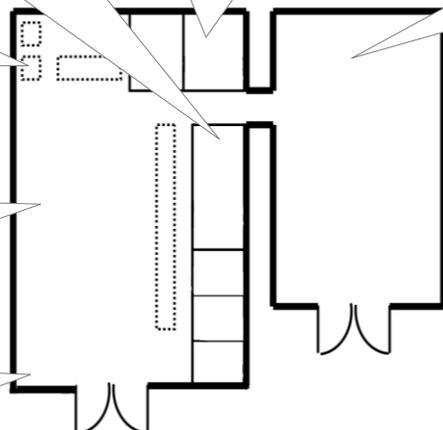
・多目的ルーム
(有料=会議室の
1/2)(要予約)
座卓で 6~7 人以内
のご利用です
* 子ども利用は無料
* 会議中の保育ル
ームとして利用可能

・会議室(有料) 昨年度利用 48 団体、494 回
標準型で 17 人、追加分 7 人、小丸椅子 4 人
工夫すれば 30 人のご利用できます。
貸出用パソコンとプロジェクター、スクリーン
を使ったセミナー等ができます
* 利用予約は電話にて、毎月 1 日に 2 カ月先を受
付。その間は随時、電話・来館にて受付
* HP「会議室等予約状況」で要確認

スタッフの事務スペース
気軽におたずねください
* 少量コピーはここで依頼

フリースペース(無料)、
譲り合って、ちょっとした打
合せにお使いください

パソコン・プリンター
(プリントは有料)
ご自由にお使いください



5月23日(水)晴れ

4月から[拠点やまと]のメンバーにな
った弘中さんが「キクメハシリグモ」を
上和田野鳥の森のビオトープで県
内で初めて見つけた、という記事が
朝日新聞に載った。メンバーが増え
ると、他のメンバーの視野も広がっ
ていく。うれしくて、楽しいことです。

*「あの手この手」は大和市民活動センター
のHPではカラーでご覧になれます。



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。
2012年6月号(第59号)をお届けします。

「自殺したいと…」23% 内閣府調査 20代が最多 28%という見出し。これは神奈川新聞 5/2 付け記事です。「自殺対策に関する意識調査」によると、成人男女の 23.4%が「自殺したいと思ったことがある」と回答し、初めて調査した前回 2008 年より 4.3 ポイント増加した。年代別では 20 代が 3.8 ポイント増の 28.4%で最も多く、このうち 36.2%は「最近 1 年以内に自殺したいと思ったことがある」と答えた。と、ありました。

若者の 4 人にひとりが「自殺したいと思ったことがある」と回答している。これ、ほんとか。事態はここまで来てしまっているのか。

「NPO 法人 自殺対策支援センター ライフリンク」(東京)の清水康之代表は「非正規雇用の増加などで悩みを相談できる安定的な人間関係を若者が職場でもつくれなくなっている」とこの記事のなかで指摘しています。働く現場の厳しい現実。確かにそうだろうなあとも思う。そして、そう思いながら、私はそこに今の若者の自尊感情の低さというものを感じてしまうのです。

現在 20 代の若者の多くは子どものときからずっと大人の目を気にして生きてきた世代。親や幼稚園・保育園の先生の前で「よい子」をしてきた。24 時間、保護という名目で監視されてきた。親や先生の「しつけ」という規範意識の規準に、どうしたらにこにこしてもらえるかを会得し、あそぶことさえ「今度なにであそべばいいの？」と親や先生に聞いてしまう「よい子」世代たち……。

この「お届け文」の 4 月号に、大和市中央林間にある「緑野青空子ども広場ツリーガーデン」(=ツリガ)のことを記しました。東電福島第 1 原発の事故で被災し、避難している福島県富岡町の子どものが来て、久しぶりに地面の感触を身体で味わったという内容でしたが、この「ツリガ」の一面に手書きの「ツリガのオキテ」という看板があります。その一部を下記に。

こどもがツリーガーデンで自由に遊ぶためには「怪我は自分の責任」という考えが基本です。そうしないと禁止事項ばかりが多くなり、こどもは自由に遊ぶことができません。ツリーガーデンのモットーは「自分の責任で自由に遊ぶ」です。

大人の「監視」という目から離れ、自分であそびを選び、つくり出し、仲間内でルールをつくり、たまには怪我をしたりして、「ツリガ」で思う存分あそぶ。そんなあそびのなかで、「私は、私でいいんだ」と自分を肯定的に思える自信は育まれます。この自尊感情を育てていく価値ある「場」が大和市にあり。

「自殺したいと思ったことがある」%を減らす。これには「ツリガ」をもっと増やすこと。これ、極論でしょうか。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2012/05/30

イラスト・望月則男

